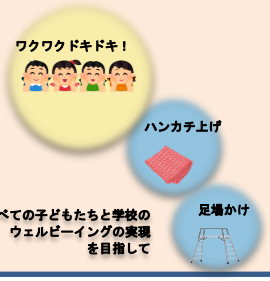
こどもが まんなか

いわてのWAっこ



いわて幼児教育センター通信
No5　令和8年11月12日発行
発行・編集
岩手県教育委員会事務局学校教育室
（いわて幼児教育センター）
本通信は岩手県HPからダウンロードできます
https://www.pref.iwate.jp/kyouikubunka/kyouiku/gakkou/1006358/1058868.html

きらきら☆せんせい☆

学び続ける先生方の研修の様子を、2つ御報告します。

【研修報告１】

９月15日、岩手県立総合教育センターにおいて、「園長等管理運営研究協議会」を開催しました。当日は、約140名の幼児教育施設の園長先生等にご参加いただきました。開会行事において、いわて幼児教育センター長から「心が育つとは視野が広がること」という話がありましたが、講演や協議に真剣に向き合う園長先生方の姿から、「園長として視野を広げていきたい」という思いをもってくださったことが伝わってきました。また、「講義と演習」においては、生成AIに関する研修を初めて行いました。「子どもと向き合う時間を増やすため」に園務でAIを活用し、事務の効率化を図ることの例を紹介しながら、プロンプト（生成AIへの指示文）作成などの体験を行いました。ご参加いただきました先生方、ありがとうございました。



○主な内容

〈講演〉「園組織で実現するインクルーシブ保育―対話で産み出す理論と実践―」
岩手大学大学院教育学研究科　教授　佐々木　全
〈説明〉「幼児教育の充実と小学校教育との接続について」
「こども・子育て政策と安心・安全な園に向けた運営について」
「虐待対応について」
〈講義と演習〉「園務におけるICT活用」
総合教育センター　情報・産業教育担当　主任研修指導主事　芦澤　信吾　他







・・・・・・・・・・・・・・・ご参加いただいた皆様のリフレクションシートより・・・・・・・・・・・・・・・

個別の指導計画について、ＲＤ（後方視的対話）の手法を用いて園児への支援の方向性を確認したり共有したりすることを園内でも提案してみたい。また、職員一人一人の強みや特性を把握し、それぞれのよさが発揮できるような環境づくり、声がけを意識したい。

今までの運営で良しとせず、様々な業務等を振り返りながら、新たな方法を取り入れていくことの必要性を感じたので、前向きに改善できるようにしていきたい。

幼小接続には、子供の姿を基につながるという一番大事なことを改めて確認できました。今ある幼小交流に、子供の姿を語り合う時間を設けたいです。
生成ＡＩが一番衝撃的でした。園でのルールや約束事を決め、安全に取り扱いたいです。

虐待対応は、園内でも研修を重ねていますが、こちらから伝えたいこと、大事にしたいことが、それぞれの捉え方で響かないことがあります。ただ、一回本を読んで気付くことではない、記録の中で振り返る、自分の特徴に気付くこと、自分の気付きが大事だという助言が心に響きました。園でお話します。

【研修報告２】

１１月２日、岩手県立総合教育センターにおいて、「幼児教育スキルアップ協議会」を開催しました。当日は、約 90 名の各幼児教育施設の先生方にご参加いただきました。申込時に選んでいただいた３つのコースで、それぞれの学びを深めていただきました。また、鳴門教育大学大学院教授　佐々木　晃先生による講演では、幼稚園教諭時代からの豊富な現場実践をもとに、幼児期において大切にしたいことについて分かりやすく教えていただきました。ご参加いただきました先生方、ありがとうございました。

○主な内容

〈講義と演習〉

Ａコース：「主任及びリーダーとしてのマネジメント」
　いわて幼児教育センター　主任指導主事　髙橋　文子

Ｂコース：「乳幼児の発達を支える保育の在り方」
　花巻市認定保育事業所ひよこ保育園　副園長　小田中　清子

Ｃコース：「子ども理解に基づく環境構成と教材研究」
　総合教育センター　研修指導主事　小野　章江



〈講演〉「幼児期に本当に大切な学びとは－非認知能力や幼保小接続の視点から考える－」
　鳴門教育大学大学院　教授　佐々木　晃





・・・・・・・・・・・・・・・ご参加いただいた皆様のリフレクションシートより・・・・・・・・・・・・・・・

主任の仕事のために何をしているのか、自分の視座を確かめる、という２点のポイントにより自分の立場を振り返ることができました。園の教育目標の達成に向けて、広い視野をもって立ち回れるよう意識していきます。　（Ａコース）

大人の都合、園の都合ではなく、個々の決定や思いを尊重すること、遊具の環境構成、笑顔で送り出してあげること等、保育者の基礎である部分を忘れずに保育し、子どもたちの可能性が広がるように関わっていきたいです。　（Ｂコース）

環境構成と教材研究では、幼児を取り巻く環境が教材となること、一人一人の子どもがどんなことに興味があるかをまず保育者が理解することが幼児理解となり、教材研究となることを学びました。
（Ｃコース）

幼児教育で大切な非認知能力を１年生の生活科をはじめとする教育活動で大切にし、接続がうまくいくよう考えていきます。ルールよりも褒めて認める教育を大事にしていきたいと思います。
（講演会の感想　小学校教諭）